

再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担当課：環境安全課
担当課長名：森山 誠二

事業名	スマートICアクセス補助 町道3628号線	事業区分	市町村道	事業主体	静岡県小山町		
起終点	自：静岡県駿東郡小山町字大御神 至：静岡県駿東郡小山町字用沢			延長	2.3 km		
事業概要	<p>町道3628号線は、平成32年度開通予定の新東名高速道路に計画中の（仮称）小山スマートICに接続する主要アクセス道路である。</p> <p>当路線を整備することにより、町内全域における物流や交流の活性化に寄与し、救命活動の迅速化や有事の際の輸送経路としての役割が期待され、防災機能の強化にも寄与する。また、新東名及びスマートICの開設を機とした地域の変革及び活力強化を図ることができる。</p>						
平成25年度事業化	昭和一年度都市計画決定 （計画変更：平成一年度）	平成26年度用地着手	平成25年度工事着手				
全体事業費	14億円	事業進捗率	43.1%	供用済延長	- km		
計画交通量	2,800台/日						
費用対効果 分析結果	B/C <small>（事業全体）</small> 3.4 <small>（残事業）</small> 7.0	総費用 <small>（残事業）/（事業全体）</small> 8.6/17億円 事業費：5.1 / 14億円 維持管理費：3.5 / 3.5億円	総便益 <small>（残事業）/（事業全体）</small> 60/ 60億円 走行時間短縮便益：45/ 45億円 走行費用減少便益：12/ 12億円 交通事故減少便益：2.9/ 2.9億円	基準年 平成28年			
感度分析の結果	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;"> <small>（事業全体）</small> 交通量：B/C= 3.1 ~ 3.8（交通量±10%） 事業費：B/C= 3.1 ~ 3.8（事業費±10%） 事業期間：B/C= 3.2 ~ 3.6（事業期間±20%） </td> <td style="width: 50%; border: none;"> <small>（残事業）</small> 交通量：B/C= 6.3 ~ 7.7（交通量±10%） 事業費：B/C= 6.3 ~ 7.6（事業費±10%） 事業期間：B/C= 6.8 ~ 7.1（事業期間±20%） </td> </tr> </table>					<small>（事業全体）</small> 交通量：B/C= 3.1 ~ 3.8（交通量±10%） 事業費：B/C= 3.1 ~ 3.8（事業費±10%） 事業期間：B/C= 3.2 ~ 3.6（事業期間±20%）	<small>（残事業）</small> 交通量：B/C= 6.3 ~ 7.7（交通量±10%） 事業費：B/C= 6.3 ~ 7.6（事業費±10%） 事業期間：B/C= 6.8 ~ 7.1（事業期間±20%）
<small>（事業全体）</small> 交通量：B/C= 3.1 ~ 3.8（交通量±10%） 事業費：B/C= 3.1 ~ 3.8（事業費±10%） 事業期間：B/C= 3.2 ~ 3.6（事業期間±20%）	<small>（残事業）</small> 交通量：B/C= 6.3 ~ 7.7（交通量±10%） 事業費：B/C= 6.3 ~ 7.6（事業費±10%） 事業期間：B/C= 6.8 ~ 7.1（事業期間±20%）						
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ①円滑なモビリティの確保 <ul style="list-style-type: none"> ・既存の御殿場ICへの一般道通行が低減し、移動時間が短縮する。 ②観光交流の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・小山町内の主要観光施設へのアクセス向上が見込まれる。 ③産業振興支援 <ul style="list-style-type: none"> ・高速道路から5 km以内で到達できる工業地域が新たに増加する。 ④安全で安心できるくらしの確保 <ul style="list-style-type: none"> ・第3次医療施設へのアクセス向上が見込まれる。 ⑤災害への備え <ul style="list-style-type: none"> ・町内防災拠点とのアクセス性が向上し、迅速な救援活動を支援できる。 						
関係する地方公共団体等の意見	特になし						
事業評価監視委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・承認 						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線に観光施設（ゴーカート場）が新たにオープンした。 						
事業の進捗状況、残事業の内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・用地取得率約50%、事業進捗率約43% 						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	<ul style="list-style-type: none"> ・残る用地の取得を継続して進めており、完了次第随時工事に着手する。 						

施設の構造や工法の変更等

- ・新技術の採用や工法の見直しによる工事コスト縮減に務め、事業を推進する。

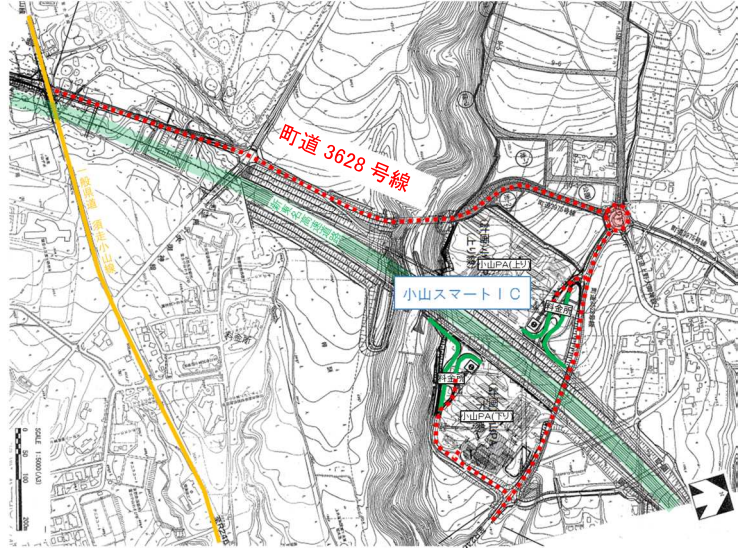
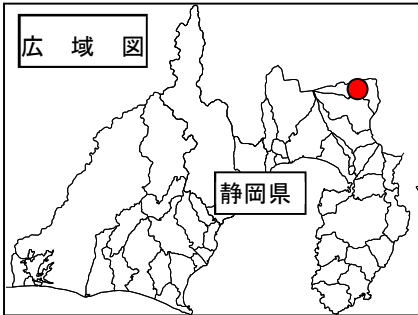
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。